

## 4 職員研修

### (1) 筑波大学主催「大学図書館職員長期研修」について

主 催：国立大学法人筑波大学

日 時：平成26年6月30日（月）～7月10日（木）

※台風8号の接近に伴い7月11日は中止。

会 場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2階 情報メディアホール

### (2) 研修報告

平成26年度大学図書館職員長期研修参加報告

神戸市外国語大学学術情報センター 橋本真里

平成26年6月30日から7月10日まで、筑波大学にて開催された大学図書館職員長期研修に参加した。図書館マネジメント総論（7科目8コマ\*）、学術情報流通各論（12科目12コマ）を受講したほか、問題発見・解決演習およびそこで学んだ手法を用いた班別討議に参加した。

講義内容は多岐にわたるものだったが、全体では、特に大学図書館経営と学習支援の話題が占める割合が高かった。ここではこれら二つの視点からの概要および特に印象に残った講義についての所感をまとめる。

\* 台風8号の接近に伴い7月11日は中止となったため、予定より1科目1コマ減となった。

#### **【大学図書館経営】**

大学図書館経営について言及する講義では、大学図書館はこれまで学内で孤立してもやってこられた面があるが、今後は連携なしには求められる機能を実現できない、という趣旨の内容が共通していた。これまで基本的に図書系職員は図書館組織の中で異動していたと思われる国立大学図書館で、学内での人事交流を検討する試みがあるとのことだったが、それもその流れの一つだろう。大学の中での地位向上のため、大学全体の在り方にも通じることも必要だが、社会の中の大学図書館の役割を見据えて『大学図書館ができること』のトータルデザインを」（『大学と大学図書館』）とのコメントも印象に残った。

『大学の経営課題』では、大学改革の状況、構造にふれた上で、大学におけるマネジメントの課題について語られた。課題の筆頭にあげられたのは、「自らの大学の社会的存在意義・価値の再確認と発信」だった。

私学でも「大学生生き残りに図書館がどう関わるか考える必要がある」（『私立大学図書館の経営』）とのことだったが、さらに、各大学の置かれた状況には大きな隔りがあり、それぞれに戦略を考える必要があるということをつけ加えられた。厳しいアウトソース化の圧力にさらさ

れる私立大学図書館の状況は、地方の小規模単科大学である本学にとって他人事ではなく、本学の状況や今後について考えさせられた。

### **【大学図書館の学習支援】**

すべての講義に先んじて文部科学省講話が行われた。「大学図書館は大学における教育の在り方の変化に合わせて学習支援活動を強化し、また自主的な学習の場として機能するように変化することが必要」という国の方針をさらうことができた。前項にも関わることだが、学習の場として再構築した後は「大学への貢献を結果として残すべき」（『大学評価と大学図書館』）ことも重要と感じた。

サービスを組み立てる前提として、まず学生の実態を正確に知る必要があると感じた。たとえば『利用者の情報行動』の講義の中で言及された「図書館不安」（利用前の不安が大きく、些細な躓きがあると二度と来館しない）、学生のPCに対する態度（PCを使わない層の存在）などは、これまではっきり意識してはいなかったものの感覚的に肯ける指摘であり、実態を把握するための方策を考える必要があると感じた。

また、学習支援に本格的に踏み込むために、教育に関する知識が不可欠になることも再認識した。『大学図書館の学習支援』で紹介された同志社大学でのアクティブラーニングの様子は興味深いものだったが、設備とともに専門スタッフを整えた同大と同様のアプローチが可能な館は限られる。各大学図書館がそれぞれの置かれた状況でできることを探るべきだろう。

教育の在り方について、今後も流動的な状況が続く可能性がある、という趣旨のコメントは複数あり、その中で「変化に対応できるよう図書館員は専門性を高めるべき」という大切な指摘があった。

### **【その他】**

以上のほか『経営学入門』が興味深い内容だった。利用者ニーズへの対応についてマーケティングの視点から検討するという内容の講義だが、特に下記にあげた点が印象に残った。

- ・ ニーズを探る方法（口に出していることが本質的な課題とは限らない）
- ・ 潜在的ニーズを仮定した提案型サービスの提供（形になっていないものはとらえにくい）
- ・ ターゲット毎に異なるニーズへの対応（人数が少なくても固有のニーズがある層、埋もれがちになる層がある）
- ・ 期待と満足の関係（期待値が高ければ満足度が下がる）

特に、潜在的ニーズを仮定した提案型サービスや、期待と満足の関係などについては図書館のサービスに応用できる可能性が高いと思う。異なる分野の視点から業務を見直すことの有益性を感じた。

また、学術情報流通の世界的な潮流、NIIの動向等についての講義からは、俯瞰で大学図書館をとらえるための手がかりとなる視点を得られた。

受講生の大半は国立大学図書館職員だが、講義内容は決して国立大に限られたものではなかった。国の施策など高等教育全体の状況を踏まえて、大学図書館はどうすべきか、という問いを立てた上で本論に入ることが多く、設置母体や規模に関わらず関心があると思われる重要な内容が多かった。2週間に渡り様々な角度から考え続けることで、現在大学図書館が置かれている立場を実感することができた。

研修内容のみならず「長期研修同期」というまたとない宝を得ることができたのも大きな成果の一つである。このことは、今後、多くの意味で仕事の支えになるだろうと思われる。

最後に、このように意義深い研修に参加する機会を与えてくださった公立大学協会図書館協議会に心より感謝の意を述べたい。また、研修に参加するにあたり様々の形で業務を支えてくれた職場の同僚には、成果を職場に還元することをもってこれに報いたいと思う。

第2 平成26年度事業報告

7月		午 前			午 後	
		9:15-10:45		11:00-12:30	13:45-15:15	15:30-17:00
30	月	9:30 受付	10:00 オリエンテーション	11:30 開講式 文科省講話	大学と大学図書館 古田元夫 東京大学附属図書館長	大学経営の課題 吉武博通 筑波大学教授
1	火	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習
2	水	問題発見・解決演習		問題発見・解決演習	問題発見・解決演習	問題発見・解決演習
3	木	国立大学図書館の経営 関川雅彦 東京大学附属図書館事務部長	私立大学図書館の経営 長谷川豊祐 鶴見大学学術情報事務長	公立図書館の戦略 船見康之 潮来市立図書館長	古典資料の保存と利用 山澤学 筑波大学准教授	
4	金	経営学入門 I, II 佐野享子 筑波大学准教授			図書館建築と設備 植松貞夫 跡見学園女子大学教授	研究者のアクセス手法 I 武田晴人 東京大学教授
5	土					
6	日					
7	月	大学評価と大学図書館 土屋俊 大学評価・学位授与機構教授	図書館と法 石井夏生利 筑波大学准教授	ディスカバリーサービスの デザイン 宇陀則彦 筑波大学准教授	研究者のアクセス手法 II 中山伸一 筑波大学附属図書館長	
8	火	大学図書館員の新たな役割 竹内比呂也 千葉大学副学長・附属図書館 長及びアカデミック・リン ク・センター長	大学図書館の学習支援 井上真琴 同志社大学 学習支援・教 育開発センター事務長	判別討議	班別討議	
9	水	利用者の情報行動 逸村裕 筑波大学教授	国立情報学研究所の戦略 尾城孝一 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長	判別討議	班別討議	
10	木	学術情報コミュニケーション の動向 佐藤義則 東北学院大学教授	消費者目線にたった顧客戦略 高橋恭介 セブン-イレブン・ジャパン	班別討議発表	班別討議発表	
11	金	筑波大学 中央図書館 見学	ヒューマン・リレーションスキル 橋本佐由理 筑波大学准教授	閉講式	台風8号の接近に伴い7月11日は中止・閉講式は 7月10日に举行	

会場：筑波大学春日エリア 情報メディアユニオン2階 メディアホールほか

7月11日（金）は、第一エリア（中地区）筑波大学附属図書館（中央図書館）